

PDART(Cisco Catalyst Center Readiness Tool)の使用

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[ツール要件](#)

[ツールの実行](#)

[オプション1:CLIからPDART実行可能ファイルを実行する](#)

[オプション2:UBFバッチによるPDARTの実行](#)

[サンプルレポート](#)

[PDARTバージョン](#)

[ツールの問題](#)

はじめに

このドキュメントでは、Cisco Prime Infrastructure用のCisco Catalyst Center ReadinessツールであるCisco PDARTについて説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

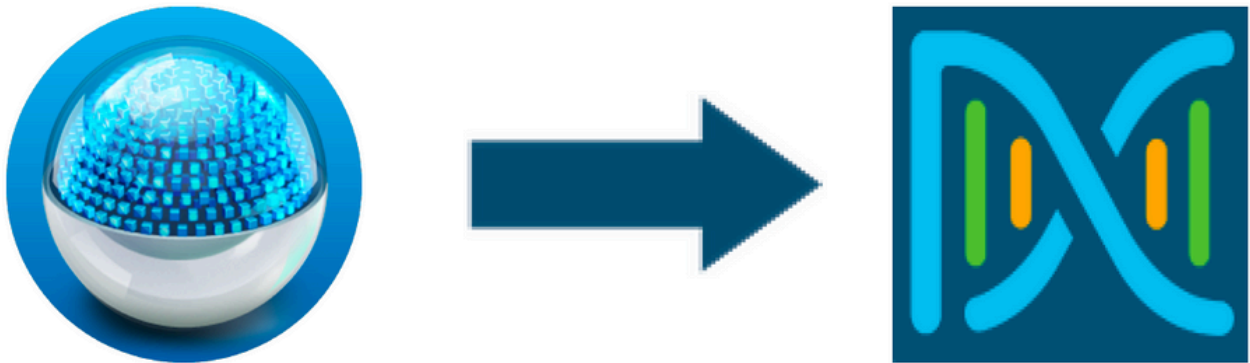
使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco Catalyst CenterプラットフォームとCisco Prime Infrastructureに基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

Cisco Prime Infrastructure Data Assessment & Readiness Tool(Cisco PDART)は、Cisco Prime Infrastructureの導入を分析し、Cisco Catalyst Centerが現在の導入をサポートしているかどうかを評価します。



PDARTは、次の観点からCisco Prime Infrastructureを評価します。

1. ユースケース – このツールは、170を超えるユースケースを自動的にチェックできます。これらのユースケースが使用中であるか、過去に使用されていたかを確認します。次に、各ユースケース（使用中/使用専用）をCisco Catalyst Centerと照らし合わせて評価します。これらのユースケースが現在サポートされているか、サポートされていないか、またはCisco Catalyst Centerのロードマップ上にあるかを評価します。手動による検証が必要な追加の23のユースケースがあり、これらはレポートに記載されています。
2. スケールパラメータ：このツールは、9つのスケールパラメータを自動的にチェックし、スケールを現在の展開でサポートされている最大値と比較します。次に、これらのスケールパラメータを、さまざまなCisco Catalyst Centerの物理フォームファクタで推奨されるスケールと比較します。
3. レポート：このツールでは、使用するレポートとスケジュール済みレポートを確認できます。これらのレポートをCisco Catalyst Centerで利用できるレポートと比較し、現在サポートされているレポート、サポートされていないレポート、ロードマップに記載されているレポートのいずれであるかを評価します。
4. デバイスの互換性：このツールは、すべての管理対象デバイスを検出し、各デバイスをCisco Catalyst Centerのサポート対象デバイスリストにマッピングできます。各デバイスは、ハードウェアの互換性、ソフトウェアの互換性、およびレガシーサポートに基づいて評価されます。
5. 移行準備チェック：このセクションには、Cisco Prime Infrastructureアプライアンスの基本的なヘルスチェックや既知の移行ブロックの分析を含む10個のチェックが含まれます。（追加の検証がまもなく提供される可能性があります）。
6. テンプレート（PDARTバージョン3.01で追加）：このツールは、Cisco Prime Infrastructureによってプッシュされたワイヤレステンプレートを判別できます。また、これらのテンプレートをCisco Catalyst Centerで適用できるかどうか、およびCisco Catalyst Centerでサポートされる属性を評価します。

PDARTは、読み取り専用で影響を与えない使いやすいツールです。機密情報の取得や展開外への情報の送信は行いません。PDARTは、Cisco Catalyst Centerの2.3.xリリースの導入を評価します。

このツールの出力は、次の内容を含むTAR GZファイルです。

1. PDF ファイル：現在のCisco Prime Infrastructure導入のサマリー評価およびCisco Catalyst Centerとのマッピング
2. Run log file：コンソール実行ログが含まれます。
3. JSON file：レポートをJSON形式で含む
4. Debug Log file：セットアップに関する追加情報のためのデータベース(DB)ダンプが含まれます (トラブルシューティングに役立ちます)。
5. AP Log file：すべてのアクセスポイント(AP)とその互換性のリスト

PDARTがUIを介して実行される場合、出力はファイルとファイルのTAR GZ2つのファイルです。

Cisco Catalyst Center Escalation Engineering、Sales、およびCX Centers TAC Enginesチームとの組み込みコラボレーション

ツール要件

- PDARTはCisco Prime Infrastructureで実行されます。
- CLIオプションは、Cisco Prime Infrastructure 3.5バージョン以降でのみ機能します。
- UBFオプションは、Cisco Prime Infrastructure 3.7バージョン以降でのみ機能します。
- 複数のCisco Prime導入がある場合、各導入でPDARTを実行する必要があります。
- PDARTはユーザーrootとして実行する必要があります (CLIからのPDART実行の要件のみ)。
- Cisco Prime Infrastructure(PI)がハイアベイラビリティ(HA)ペア (HA機能が設定されている) で導入されている場合、PDART UBFをインストールするために[ここで説明する](#)手順を使用します (UBFのみからPDARTを実行する場合の要件)。

ツールの実行

このツールを実行するには、次の2つの方法があります。

オプション1:CLIからPDART実行可能ファイルを実行する

ステップ 1：GithubからpdartをCisco Prime Infrastructure上の任意のディレクトリに実行可能ファイルをコピーします。最新バージョンのPDART実行可能ファイルは、[CiscoDevNet/PDART](#)から入手できます。

ファイルをコピーするには、次の2つの方法があります。

1. FilezillaやWinSCPなどのファイル転送ツール。
2. Cisco Prime Infrastructureにインターネット接続がある場合は、次のコマンドを使用してファイルをダウンロードします。

```
wget --no-check-certificate https://github.com/CiscoDevNet/PDART/raw/main/pdart
```

以下に例を挙げます。

```
[root@pi ~]# wget --no-check-certificate https://github.com/CiscoDevNet/PDART/raw/main/pdart
--2021-07-16 00:23:44-- https://github.com/CiscoDevNet/PDART/raw/main/pdart
Resolving github.com (github.com)... 10.82.113.3
Connecting to github.com (github.com)|10.82.113.3|:443... connected.
HTTP request sent, awaiting response... 302 Found
Location: https://raw.githubusercontent.com/CiscoDevNet/PDART/main/pdart [following]
--2021-07-16 00:23:44-- https://raw.githubusercontent.com/CiscoDevNet/PDART/main/pdart
Resolving raw.githubusercontent.com (raw.githubusercontent.com)... 192.168.109.133, 192.168.108.133, 19
Connecting to raw.githubusercontent.com (raw.githubusercontent.com)|192.168.109.133|:443... connected.
HTTP request sent, awaiting response... 200 OK
Length: 14545120 (14M) [application/octet-stream]
Saving to: 'pdart'

100%[=====
2021-07-16 00:23:45 (11.2 MB/s) - 'pdart' saved [14545120/14545120]

[root@pi ~]#
```

ステップ 2 : ファイル権限を実行可能ファイルに変更します。

```
[root@pi ~]# chmod 755 pdart
```

このコマンド `Linux file` を実行して、実行可能ファイルがあることを確認し、`ls -l`を使用して、`chmod`コマンドによってrootユーザがファイルを実行できるかどうかを確認し `pdart` ます。

```
file pdart
ls -l pdart
```

以下に例を挙げます。

```
[root@pi ~]# file pdart
pdart: ELF 64-bit LSB executable, x86-64, version 1 (SYSV), dynamically linked (uses shared libs), for
[root@pi ~]#
[root@pi ~]# ls -l pdart
-rwxr-xr-x. 1 root root 14545120 Jul 16 00:23 pdart
[root@pi ~]#
```

ステップ3: (オプション) ファイル `pdart` のハッシュを検証して、正しいファイルがダウンロードされていることを確認します。

適切なファイルがダウンロードされたことを確認するには、[このページの最後](#)にあるMD5ハッシュ値またはSHA256ハッシュ値を比較します。PDARTの各バージョンは、ハッシュ値の一意的セットを持つことができます。

ステップ 3.1 : MD5ハッシュの検証。

コマンドmd5sumを使用します (上記を参照)。Cisco Prime Infraまたはその他のLinuxシステムでハッシュを生成し、そのハッシュ値を[このページの最後](#)の値と比較します。

```
$ md5sum pdart
52f429dd275e357fe3282600d38ba133 pdart
```

ステップ 3.2 : SHA256ハッシュ検証。

コマンドsha256sumを使用します (上記を参照)。Cisco Prime Infraまたはその他のLinuxシステムでハッシュを生成し、そのハッシュ値を[このページの最後](#)の値と比較します。

```
$ sha256sum pdart
c91b6092ab4fa57adbe698a3c17f9146523bba5b0315222475aa4935662a0b6e pdart
```

ステップ 4 : CLIからファイルを実行する単一のコマンド (rootユーザとしてログインしていることを確認します)。

```
./pdart
```

CLIからの出力例 :

```
[root@pi ~]# ./pdart
#####
###                               ###
###      Welcome to Cisco PDART    ###
###              version: 3.01     ###
###                               ###
#####
###

##
## Script Start Time: 2023-06-12_13:03:25
##

#####
##
```

```
## Initiating DB Accessible Check ...
##

# DB is accessible, continuing....

#####
##
## Initiating Platform Checks ...
##

...

#####
##
## All Checks completed, building the PDF ...
##

## Summary page built, working on the pages with the details...

## Report built for - Device compatibility checks...

## Report built for - Scale checks...

## Report built for - Use Case checks...

## Report built for - Reporting checks...

## Report built for - Wireless Templates checks...

## Report built for - Platform checks...

##
## Script End Time: 2023-06-12_13:07:13
##
```

```
*****
Cisco PDART Tool has successfully completed.
PDF report, run logs and a json of the results can be found at:

PDART tarfile - /localdisk/defaultRepo/pdart.d/PDART_2023-06-12_13-03-25.tar.gz
[root@pi ~]#
```

ステップ 5 : ツールによって1つのファイルが作成され、その場所で使用でき
/localdisk/defaultRepo/pdart.d/です。ファイルは、FilezillaまたはWinSCPを使用してPrimeからコピーで
きます。ファイルはTAR GZ、コピーの前または後に解凍できます。

このコマンドを使用すると、Cisco Prime Infrastructure上のファイルを解凍できます (オプションの手順)。

```
[root@pi ~]# tar -xvf PDART_2023-06-12_13-03-25.tar.gz
PDART_report_2023-06-12_13-03-25.pdf
PDART_results_2023-06-12_13-03-25.json
PDART_runlog_2023-06-12_13-03-25.log
PDART_aps_2023-06-12_13-03-25.json
PDART_debuglog_2023-06-12_13-03-25.log
[root@pi ~]#
```

オプション2:UBFパッチによるPDARTの実行

PDARTは、この方法を使用してUIを介して実行できます。PDART実行可能ファイルは、Cisco.comからダウンロードし、Prime Instanceにアップロードしてインストールする必要があるパッチファイル(Updated Bundle File UBF)の一部です。ルートクレデンシャルは、このオプションの要件ではありません。次に詳細な手順を示します。

ステップ 1 : ソフトウェアバージョンを確認し、Cisco.comから一致するUBFをダウンロードします。

で始まるファイルをダウンロードしますDNACAssessmentReadiness_ (ファイルをダウンロードするにはCCOログインが必要です)。

3.10.1:[Prime Infrastructureリリース3.10.1のソフトウェアダウンロード](#)

3.9.1:[Prime Infrastructureリリース3.9.1のソフトウェアダウンロード](#)

3.8.1:[Prime Infrastructureリリース3.8.1のソフトウェアダウンロード](#)

3.7.1:[Prime Infrastructureリリース3.7.1のソフトウェアダウンロード](#)

3.8.1のイメージを次に示します。

Software Download

[Downloads Home](#) / [Cloud and Systems Management](#) / [Routing and Switching Management](#) / [Network Management Solutions](#) / [Prime Infrastructure](#) / [Prime Infrastructure 3.8](#) / [Prime Infrastructure Patches - 3.8.1](#)

[Expand All](#) [Collapse All](#)

Latest Release ▼

3.8.1

All Release ▼

3.8 >


Prime Infrastructure 3.8

Release 3.8.1

[▲ My Notifications](#)

Related Links and Documentation

- No related links or documentation -

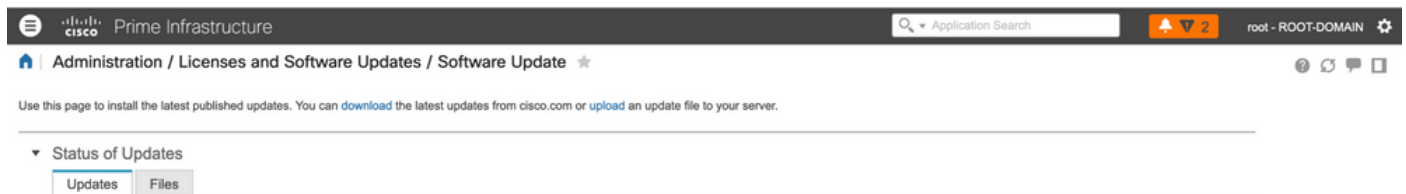
 Update 02.01 for Prime Data Migration Tool - Can be deployed only on PI 3.8.1 Update 01

File Information	Release Date	Size	
PI 3.8 DNA Center Assessment and Readiness Update 03 DNACAssessmentReadiness_3_8_Update_03-1.0.3.ubf Advisories	17-Sep-2022	13.60 MB	↓ 🛒 📄

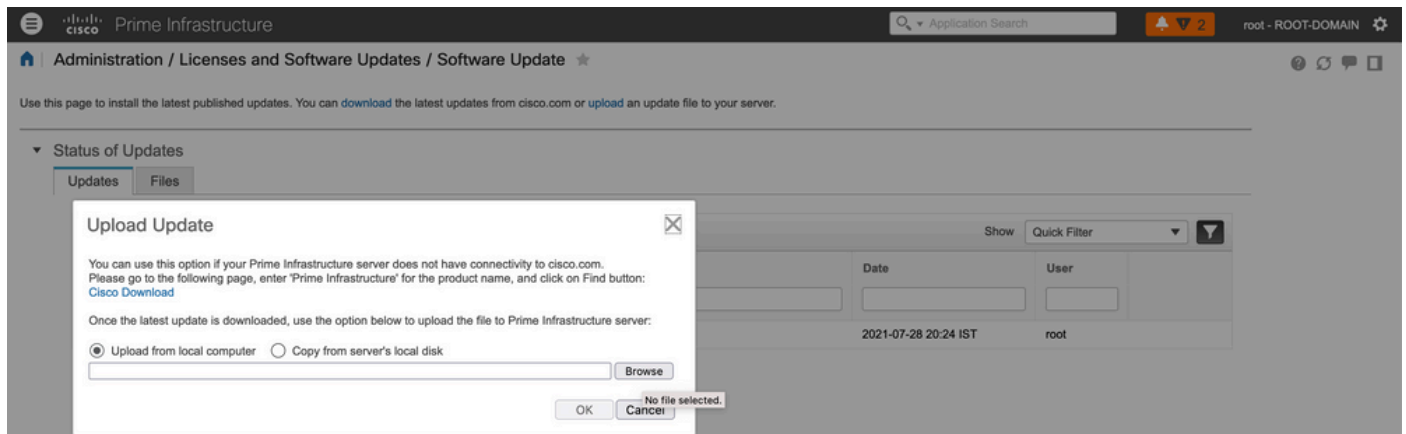
ステップ 2 : ローカルシステムからファイルをアップロードしUBF、インストールします (Cisco Primeのリロードが必要)。

ファイルがローカルシステムにダウンロードされたら、UIを使用してUBF、ファイルをアップロードおよびインストールできます。メインメニューから、Software Updateページに移動します。

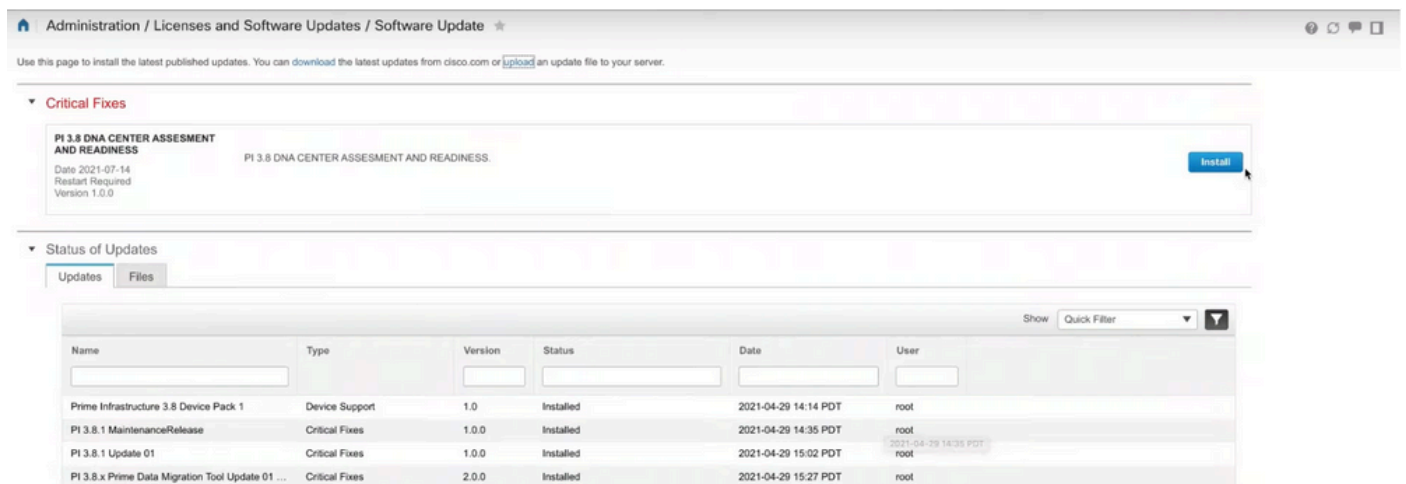
をクリックして Administration > Licenses and Software Updates > Software Update and then click Upload、Cisco PrimeにファイルUBFをアップロードします。



ローカルコンピュータを参照して必要なファイルUBFを選択し、をクリックしOkします。

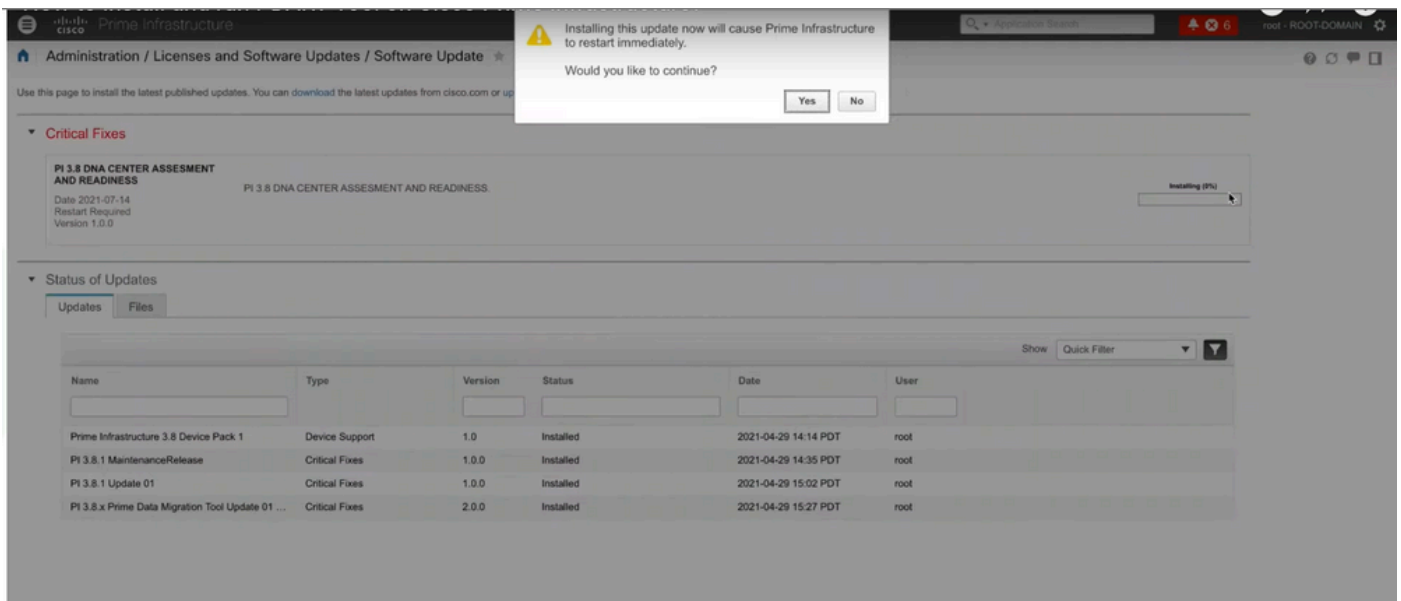


ファイルがアップロードされたら、InstallボタンをクリックしてUBFをインストールします。

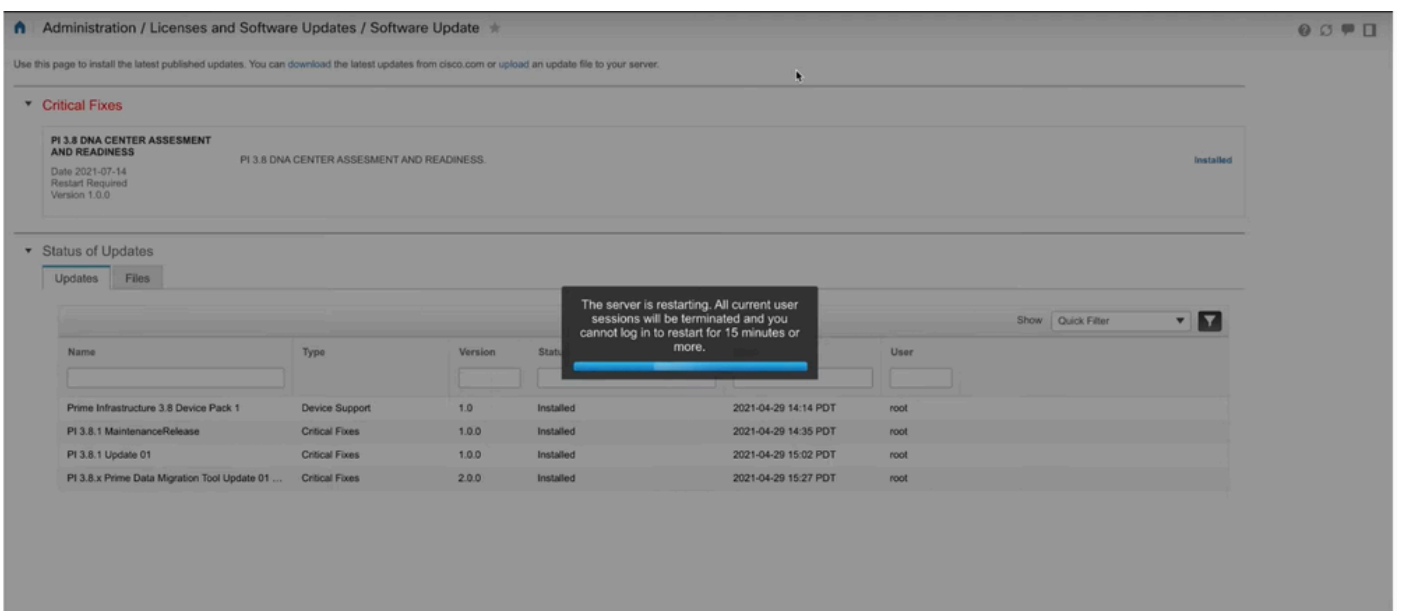


ポップアップウィンドウYesをクリックして、Cisco Prime Infrastructureを再起動し、UBFをイン

ストールします。



Cisco Prime Infrastructureが再起動し、15 ~ 30分間サービスが停止します。

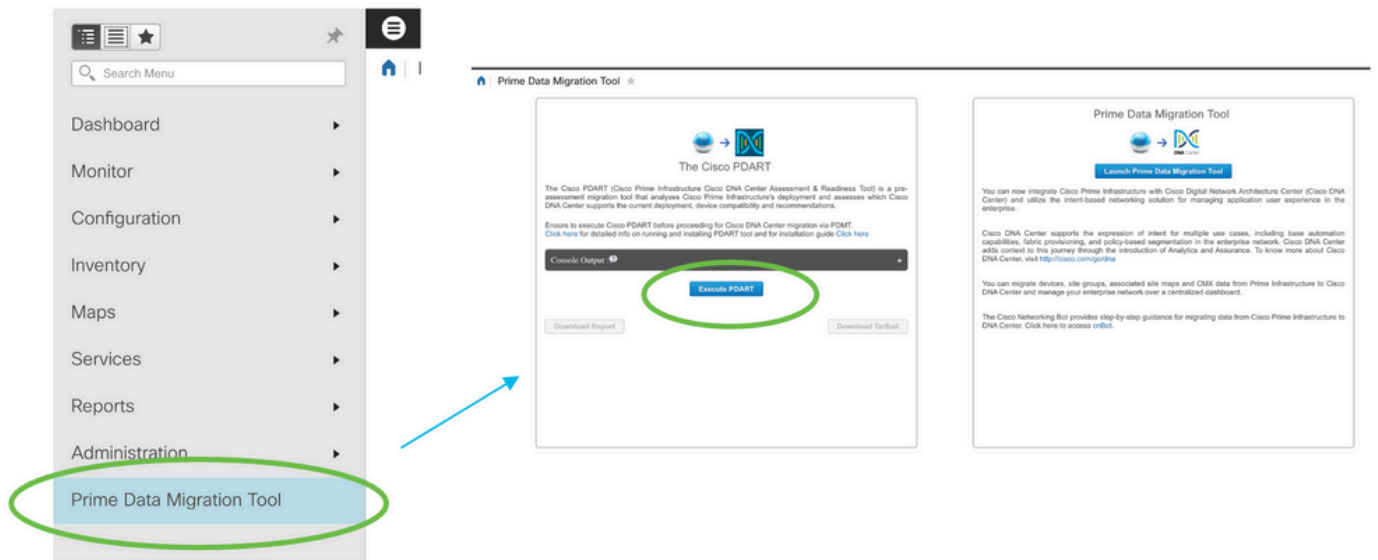


ステップ 3 : PDART画面 (ステップ3.1または3.2) に移動します。

ステップ 3.1 : UBFがインストールされたら、このURLに移動してPDARTのメインページを表示します。PDARTを実行RUN PDART TOOLするには、をクリックします。

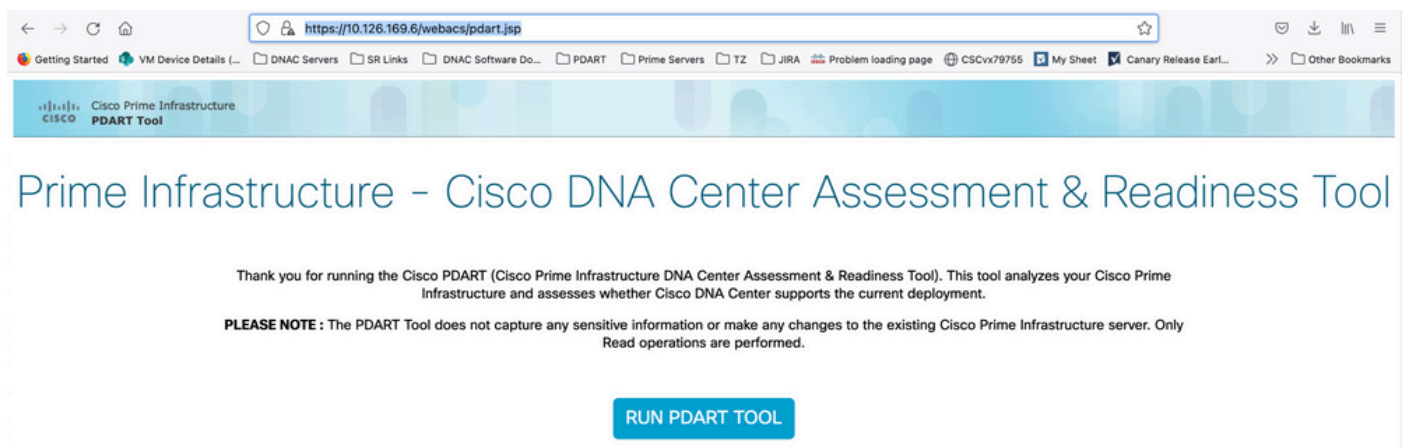
<https://<Cisco Prime IP Address>/webacs/pdart.jsp>

ステップ 3.2 : UBFがインストールされ、Prime Data Migration Toolバージョン5もインストールされている場合は、次の画面キャプチャに従ってハンバーガーマニューからPDARTを起動できます。

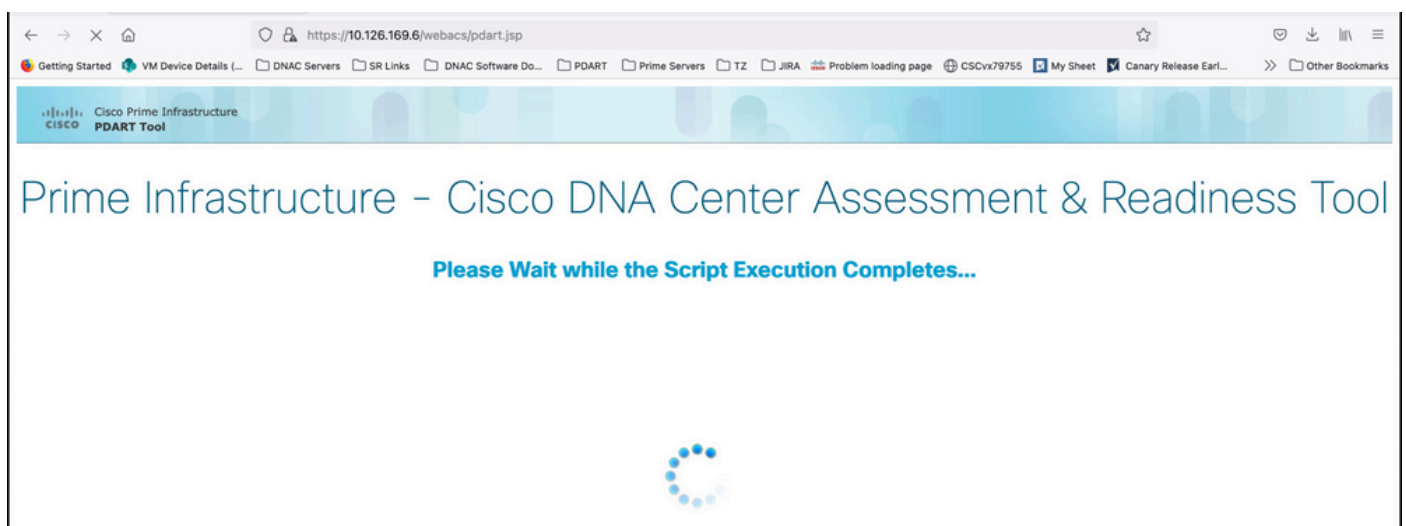


ステップ 4 : UIからPDARTを実行します。

次のスクリーンキャプチャは、PDARTの実行をガイドします。

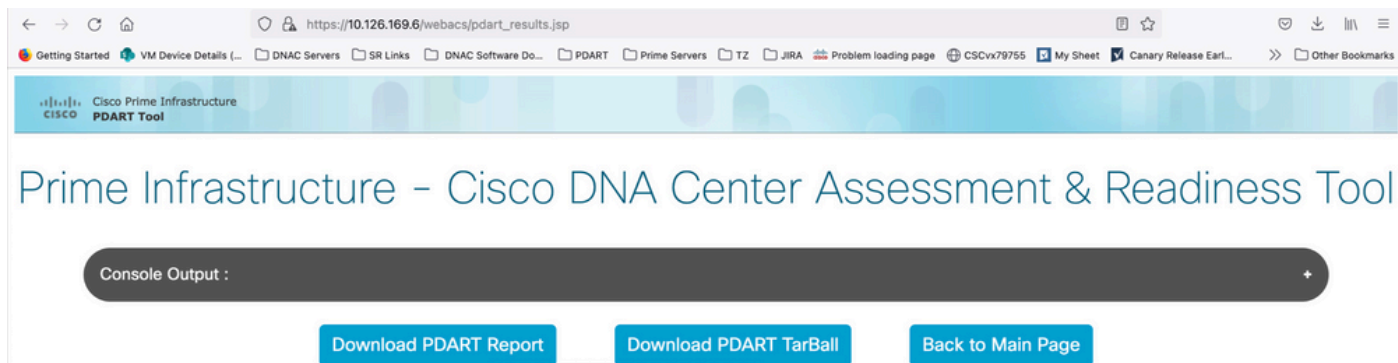


ほとんどの場合、PDARTは完了するまでに3 ~ 5分かかりますが、大規模なセットアップでは、完了までに最大10分かかる場合があります。



これらのオプションは、PDARTの実行が完了すると表示されます。

をクリックDownload PDART ReportしてPDART PDFレポートを表示するか、Back to Main Pageをクリックしてメインページに戻り、PDARTを再実行します。



サンプルレポート

このイメージには、実行されたすべてのチェックの概要を示すレポートの最初のページが含まれます。後続のページには、実行されたチェックの詳細が含まれます。

Cisco PDART Results - v3.03

The Cisco PDART (Cisco Prime Infrastructure Catalyst Center Assessment & Readiness Tool) analyzes your Cisco Prime Infrastructure and assesses whether Cisco Catalyst Center supports the current deployment. It summarizes the deployment in this report and performs certain health checks, without affecting any of the devices. This PDF is auto generated by the tool and summarizes all the checks. No sensitive information is captured. Thank you for running it, please reach out to pdart-tool-support@cisco.com for any feedback.



Cisco Catalyst Center Ready

Current Cisco Prime Infrastructure Version : 3.10.0

Catalyst Center Version Assessed : 2.3.5

Script Execution Time

Hostname:	maui-sysauto-249	14	11	0	3
Start Time:	2024-02-06 11:37:56	Total	Pass	Warn	Fail
End Time:	2024-02-06 11:41:01				

Migration Readiness

Managed Devices

72	11	32	24	5
Total	Supported	Require SW Upgrade	Legacy	Unsupported

Use Cases

43	31	8	4
Used/In Use	Supported	Unsupported	Roadmap

Reports

0	0	0	0
Used/In Use	Supported	Unsupported	Roadmap

Wireless Templates

0	0	0	0
Used/In Use	Supported	Unsupported	Partial

Scale

Express	DN2-HW-APL
Virtual Appliance in Use	Recommended Appliance

PDARTバージョン

PDARTバージョン	注釈
最大 0.09	すべてのアセスメントは、Cisco Catalyst Centerバージョン2.2.2.xに基づいています。UBFおよびGithub。
1.01	すべての評価（ユースケース、デバイス、スケール、レポート）は、Cisco Catalyst Centerバージョン2.2.3.xに基づいています。すべてのAP用の新しいJSONファイルとその互換性。プラットフォームのセクションは移行準備状況に変更され、CPUコア、合計メモリ、CPU負荷平均、計画されたAPのリストと場所、緯度/経度の設定がない建物、ディスク使用率、フェーズ2移行ツールのインストールチェックが含まれます。Githubのみ。
1.02	PI 3.10との互換性Githubのみ。
1.03	管理対象外デバイスのカウントチェック、複数のバグ修正、およびデバイス互換性でのクラッシュ。ISEサーバ移行の推奨事項Githubのみ。
1.05	バグ修正が含まれます。UBFとGithubの両方がサポートされています。
2.01	すべてのアセスメントは、Cisco Catalyst Centerバージョン2.3.3.xに基づいています。レガシーサポートと追加の移行ブロッカーチェックGithubでのみ利用可能です。
2.02	<p>このバージョンは、CCOではUBF（アップデート3）として、Githubでは実行可能ファイルとして、両方の形式で使用できます。</p> <p>スケール番号は、2.3.3.xリリースで公開された新しい番号にインラインで対応しています。</p> <p>UBFファイルは次のとおりです。</p> <p>Cisco DNACAssessmentReadiness_3_7_Update_03-1.0.3.ubf（登録ユーザ専用）</p> <p>Cisco DNACAssessmentReadiness_3_8_Update_03-1.0.3.ubf（登録ユーザ専用）</p> <p>Cisco DNACAssessmentReadiness_3_9_Update_03-1.0.3.ubf（登録ユーザ専用）</p>

	Cisco DNACAssessmentReadiness_3_10_Update_03-1.0.3.ub
2.03	マイナーなバグ修正とGithubでのみ利用可能です。
2.04	マイナーなバグ修正とGithubでのみ利用可能です。
3.01	<p>すべてのアセスメントは、Cisco Catalyst Centerバージョン2.3.5.xに基づいています。</p> <p>ワイヤレステンプレート機能を導入。</p> <p>Githubでのみ利用可能です。</p> <p>MD5チェックサム : fd31d1895b32bdd5bbe557b5b816e57c</p> <p>SHA256チェックサム : 16343616aadb63b676804e2b49cf1e93e142caede1003c889de462b2d6983ffc</p>
3.02	<p>すべてのアセスメントは、Cisco Catalyst Centerバージョン2.3.5.xに基づいています。PDART内のデバイス互換性マトリックスが更新されます。</p> <p>追加の移行チェックと変更 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • サポートされていない特殊文字が原因で移行できないサイト、または先頭または末尾が空白のサイト。 • 場所を含めるために計画された移行チェックを複製します。 • デバイスが間違ったグループまたは間違ったグループタイプに属しているため、移行できないデバイス。 <p>GithubおよびUBFで利用可能。</p> <p>MD5チェックサム : 6f774cb32143f73333ad8960bcecd871</p> <p>SHA256チェックサム : 78c82e2ebc2e00ac3fd9a98171bfa98c769a51d12b3fa98b73baaf97fd552236</p>
3.03	<p>名前をCisco Catalyst Centerに変更。</p> <p>Githubのみ。</p>

ツールの問題

このツールの詳細については、pdart-tool-support@cisco.comにお問い合わせください。

PDARTファイルがCisco Prime Infrastructureに正常にダウンロードされたが、実行されない場合は、次のLinuxコマンドの出力を共有します。

```
file pdart
ls -l pdart
log files in /localdisk/defaultRepo/pdart.d/
tool run logs seen on screen (in case of CLI version)
```

PDARTをUI経由で実行できない場合は、画面キャプチャと失敗したログを共有します。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。